

# 都市再生整備計画 事後評価シート

上青木・里地区

平成30年12月

埼玉県川口市

様式2-1 評価結果のまとめ

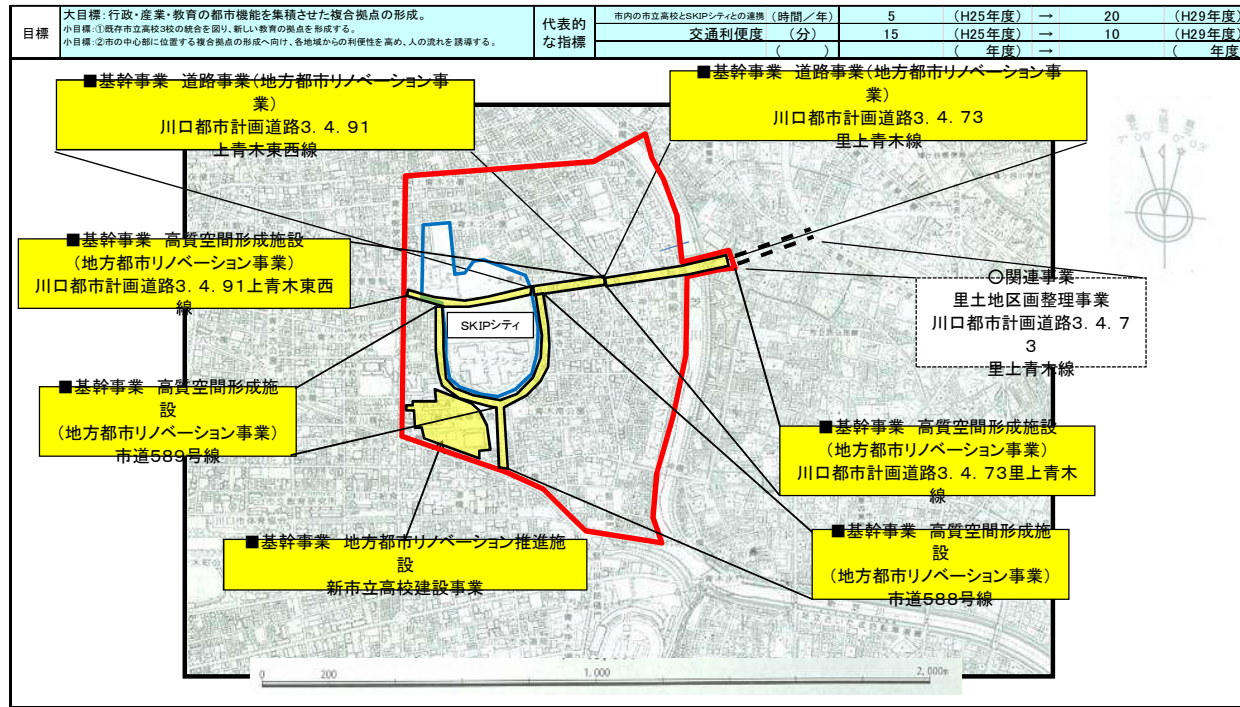
都道府県名	埼玉県		市町村名	川口市		地区名	上青木・里地区		面積	83.8ha				
交付期間	平成26年～平成29年度		事後評価実施時期	平成30年度		交付対象事業費	1,953百万円		国費率	0.5				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 地方都市リノベーション推進施設(新市立高校建設事業) 道路(川口市計画道路3. 4. 73里上青木線、川口市計画道路3. 4. 91上青木東西線) 高質空間形成施設(川口市計画道路3. 4. 73里上青木線、川口市計画道路3. 4. 91上青木東西線、市道588号線、市道589号線道路事業)											
		提案事業	なし											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		提案事業	なし											
	新たに追加した事業	基幹事業	なし											
		提案事業	なし											
交付期間の変更	当初変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期					
	指標1	市内の市立高校とSKIPシティとの連携	時間/年	5	H25	20	H29	モニタリング	評価値	20	○	あり なし	科学館とサイエンスショーを行うなど、科学に関する興味、関心を高めるための連携を行った。	
	指標2	交通利便度	分	15	H25	10	H28			8.2	○	あり なし	道路(橋りょう)が完成したことにより、移動距離が短縮され、交通利便度が上がった。	
	指標3											あり なし		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期					
	その他の数値指標1													
	その他の数値指標2													
	その他の数値指標3													
4) 定性的な効果発現状況	なし													
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										

## 様式2-2 地区の概要

### 上青木・里地区(埼玉県川口市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値			
大目標:行政・産業・教育の都市機能を集積させ、人が集まる魅力的な空間を形成し、都市活動の活性化を促進する。 小目標①:既存市立高校3校の統合を図り、新しい教育の拠点を形成する。 小目標②:市の中心部に位置する複合拠点の形成へ向け、各地域からの利便性を高め、人の流れを誘導する。	市内の市立高校とSKIPシティとの連携	5	H25	20	H29	20	H29
	交通利便度	15	H25	10	H28	8.2	H30

### 上青木・里地区(埼玉県川口市) 整備方針概要図



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市は、市制施行以来、急速な人口増加に対応するため、市街地整備を進め市域の大部分を市街地とした。急速な都市化の結果、各市街地に工業、商業、サービス業などの産業・住宅とが混在し、都市機能が分散してしまった。また、本市の公共施設は、急速な都市化に対応するよう整備してきたが、これらの施設は昭和40年代に建設されたものが多く、老朽化が進み更新時期に差し掛かっている。</li> <li>上青木・里地区(SKIPシティ)は、埼玉高速鉄道鳩ヶ谷駅からのアクセス動線である都市計画道路の渡河橋が未整備であり、一部未利用街区が存在するなど地区内の土地の有効活用が図られていない。</li> <li>公共施設の大部分は昭和40年代に分散して建設されており、更新時期を迎えようとしているなか、人口減少社会に対応した市の行政庁舎・市立高校・保育所・公民館などの集約化が必要とされる。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4次川口市総合計画において、青木地域(上青木地区は当該地域に含まれる)では、新しい産業技術、産業文化の情報を集積し発信すると共に、親水空間をはじめとしたゆとりある環境を備えた多くの人が集うまちを目指す地域と位置付けている。</li> <li>平成23年度の鳩ヶ谷市との合併により、当該地区は、市の中心部に位置することとなり、新しい川口市としての街づくりの中心地区として整備する。</li> <li>埼玉高速鉄道線鳩ヶ谷駅開業を活かし、駅から徒歩圏内の利点を最大限取り入れるまちづくりを促進するためには、アクセスの充実が不可欠であり、SKIPシティの街びらき効果を結びつけ、この地区のポテンシャルを引き出す。</li> <li>高等学校教育改革が全国的なレベルで進展しており、埼玉県においても、「21世紀いきいきハイスクール構想」及び「同推進計画」に基づき、県立高等学校教育改革の一環として、新しいタイプの学校や特色ある学校・学科の設置や再編・統合が進められている。</li> <li>当該地区に設置される新校においては、意見交換会を通して地域の意向を把握し、学校施設(グラウンド、大ホール、アリーナ)を地域住民が利用できるような施設の整備を行う。また、地域の避難拠点として、防災機能の充実を図ることとしては、避難所、一とき避難広場としての機能を持たせ、備蓄庫やマンホールトイレを設置するとともに、合宿所を緊急避難時の高齢者や要介護者への宿泊場所としても提供していく。</li> </ul>